

1. 小野路宿通りに面した小島家は立派な門前が900坪の屋敷を囲み、歴史を偲ばせる 2. 剣術の稽古をした庭。上野寛永寺から移設された灯籠には戊辰戦争の一つである上野戦争時の弾痕が残っている 3. 明治維新後も醫を結い、生涯それを貫いた小島鹿之助 4. 小島資料館には貴重な史料が大量に保存されている 5. 170年前の母屋を改築した小島家 6. ドクロのマークが刺繍された近藤勇の稽古着も残っている



小島資料館 町田市小野路950 042-736-8777 小田急線「鞆川」駅から徒歩1分  
開館日：毎月第1・第3日曜日(1~2月休館) 午後1時~午後5時 入館料：一般600円、小学生300円 <http://www.kojishir.com/>

# 特集2 小島

# 鹿之助

鎌倉時代、旧鎌倉街道の宿場町として栄えた町田市小野路。江戸の頃は大山詣の人々で賑わい、幕末の時代になると近藤勇や土方歳三、沖田総司らが小島鹿之助のもとを訪れ、剣術の稽古に勤しんだという。

激動の幕末に、新選組を支えた小野路の名主



応永2年(1395)、小野路に居を構え、豪農となった小島家。その後、徳川の時代に名主となり、文政10年(1827)には小野路村外34ヶ村組合村の親村の長となる寄場名主を務めることとなった。

文政13年(1830)、小島角左衛門の長男に生まれた小島鹿之助は、幼い頃から学問に親しみ、学者肌の名主として知られている。土方歳三の縁戚で、宿場名主職を継承した翌年の嘉永元年(1848)、19歳で多摩郡小山村(現・町田市小山町)出身の天然理心流三代近藤周助に入門した。これが縁で近藤周助の養子となった宮川勝五郎、後の近藤勇と出会い、二人は義兄弟の契りを結ぶ仲となる。小島家は、江戸・市ヶ谷の道場「試術館」の出稽古場として自邸の庭を提供、後に新選組を結成した土方歳三や沖田総司らが稽古に訪れた。一方、夜になると学問に造詣が深い鹿之助が近藤勇らに漢学を教授。鹿之助は、師事した漢学者の菊池菊城、遠山雲如らから儒教の影響を受け、朋友・近藤勇に尊王攘夷を説いたと言われている。新選組局長となった近

藤勇の勤皇佐幕の姿勢は、鹿之助から学んだ儒教思想の影響を受けているといえよう。後に鹿之助は、学校制度制定以前の公教育として「小野郷学」を開校し儒教教育に専心、また安政年間には、義兄弟の契りを結んだ野津田の自由民権家で後の群馬県知事・石坂昌孝の自由民権運動も支援した。

近藤勇や土方歳三らが京都へ上洛し、新選組を組織した後も、鹿之助は相談相手として手紙のやり取りを続けていた。歴代筆まめとされる小島家には、「小島日記」という86年分にも及ぶ大量の日記が残されており、また「異聞録」では、近藤勇が鹿之助に宛てた手紙の写しがあり、当時の新選組の内情が事細かに記されている。維新後、鹿之助は近藤勇と土方歳三の殉死を惜しみ、彼らの書簡や遺品を整理し、後世に伝えることに専心した。小島資料館は1万点以上の関係資料を所蔵するが、うち6654点の古文書は、東京都の有形文化財に指定されている。

黒堀が続く小野路の宿通りに佇む小島家は、その歴史を今に伝えている。